

第4期 (2020年5月15日)	
基準価額	10,301円
純資産総額	847百万円
第4期 (2019年5月16日～2020年5月15日)	
騰落率	0.7%
分配金合計	0円

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記の弊社ホームページを開き「個人投資家の皆様へ」の上部にある「サイトマップ」より当ファンドの名称を選択いただき、さらに「運用報告書（全体版）」を選択いただきますと運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 書面での運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

ピクテYENアセット・ アロケーション・ファンド (1年決算型)

愛称 **円資産プラス1年**

追加型投信／内外／資産複合

第4期（決算日：2020年5月15日）

作成対象期間：2019年5月16日～2020年5月15日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、「ピクテYENアセット・アロケーション・ファンド(1年決算型)」は、このたび、第4期の決算を行いました。当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界各国の債券や株式等に投資し、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的としております。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ投信投資顧問株式会社

東京都千代田区丸の内2-2-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

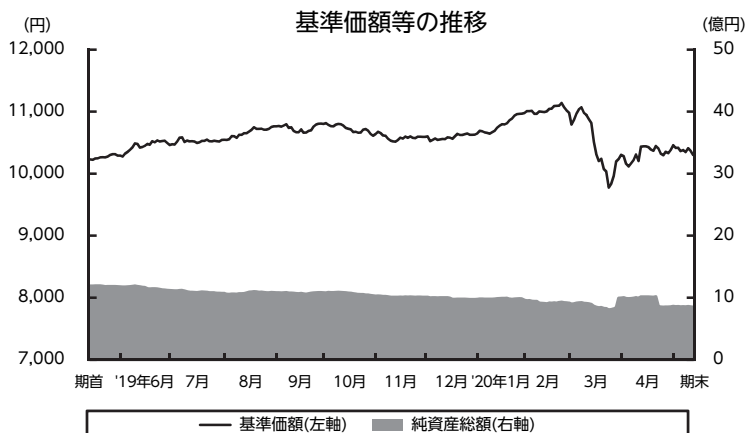
電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

運用経過

基準価額等の推移



第4期首 : 10,228円
第4期末 : 10,301円
(既払分配金 : 0円)
騰落率 : 0.7%

基準価額の主な変動要因

- 上昇▲ ・実質的に組入れている国債や株式からの利金・配当収入
- 上昇▲ ・実質的に組入れている国債の価格が上昇したこと
- 下落▼ ・実質的に組入れている株式の価格が下落したこと
- 下落▼ ・為替ヘッジコスト

1万口当たりの費用明細

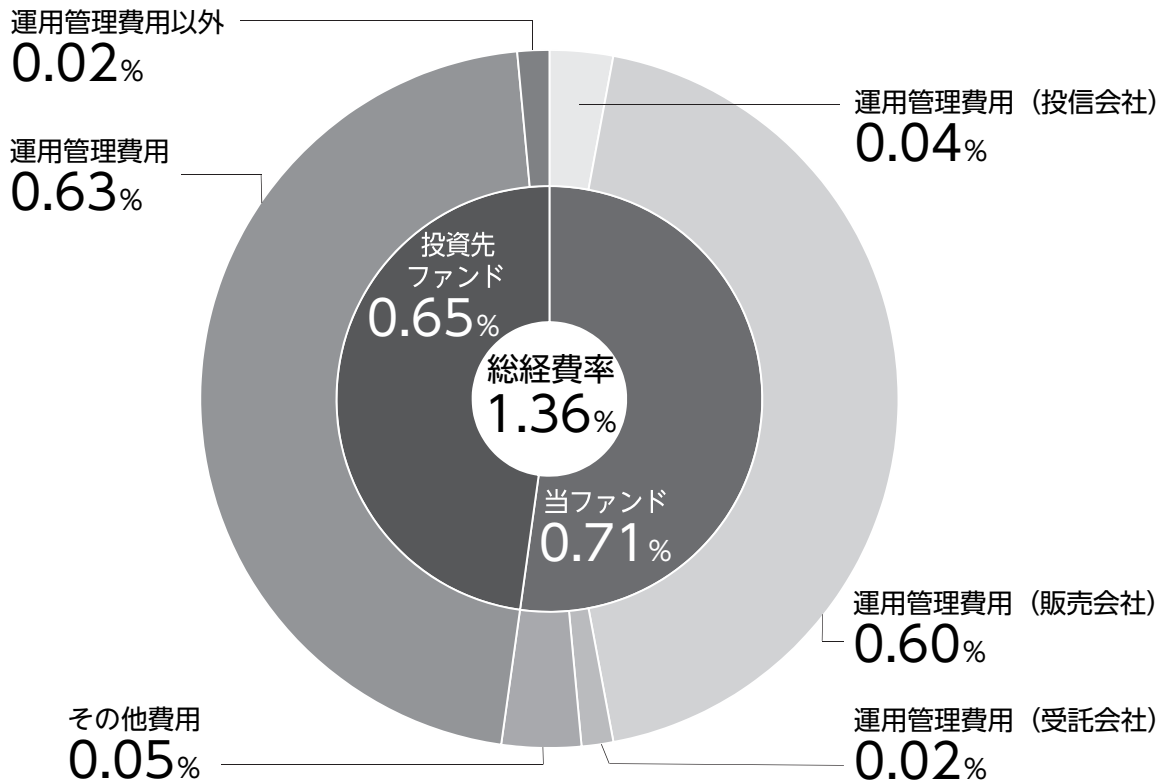
項目	当期 (2019年5月16日~2020年5月15日)		項目の概要
	金額	比率	
平均基準価額	10,621円	-	期中の平均基準価額（月末値の平均値）です。
(a) 信託報酬 (投信会社)	71円 (5)	0.671% (0.044)	(a) 信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(64)	(0.605)	・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	6	0.054	(b) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(5)	(0.051)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.003)	・その他は、目論見書、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用その他信託事務の処理等に要する諸費用
合計	77	0.725	

- ・上記の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- ・各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。
- ・各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては後掲「組入投資信託証券の内容」に表示することとしています。
- ・各金額の円未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

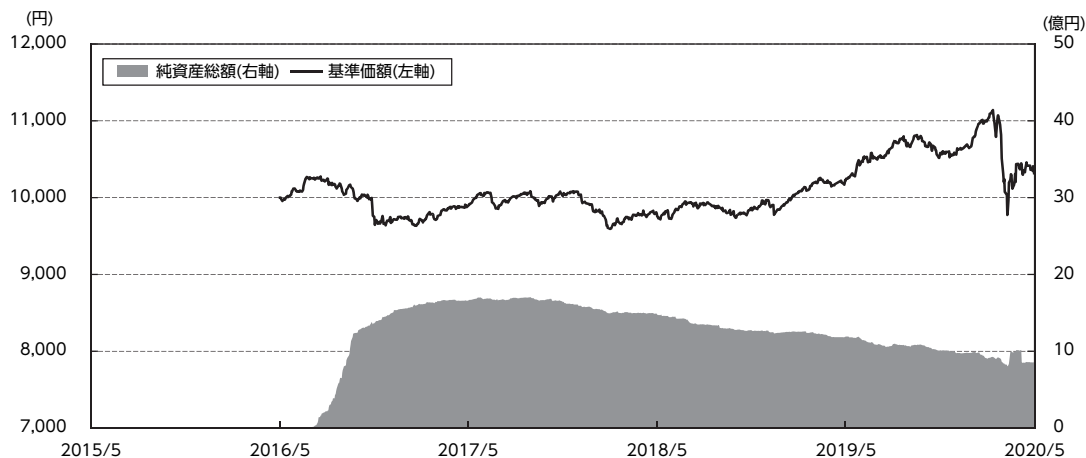
当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）**は1.36%です。



総経費率 (①+②+③)	1.36%
①当ファンドの費用の比率	0.71%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.63%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02%

- ・①の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。
- ・各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
- ・各比率は、年率換算した値です。
- ・投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券です。
- ・①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
- ・①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- ・上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移 (2015/5/15~2020/5/15)



・設定日（2016年5月13日）以降の推移を表示しております。

決算日	2016/5/13 (設定日)	2017/5/15	2018/5/15	2019/5/15	2020/5/15
基準価額 (円)	10,000	9,895	9,795	10,228	10,301
期間分配金合計 (税引前、円)	-	0	0	0	0
基準価額騰落率	-	-1.05%	-1.01%	4.42%	0.71%
純資産総額 (百万円)	0	1,658	1,486	1,188	847

・当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

投資環境

- ・世界の国債市場は、期首から7月にかけては、米中貿易戦争の激化や英国の合意なき欧州連合（EU）離脱への警戒感などから投資家のリスク回避の姿勢が強まり、上昇（利回りは低下）しました。8月は、ドイツのGDP（国内総生産）成長率が前期比マイナスになったことや中国の経済指標が市場予想を下回ったことなどから世界的に景気減速懸念が高まり、大きく上昇（利回りは低下）しました。9月から12月にかけては、米連邦準備制度理事会（FRB）が追加金融緩和に対する慎重な姿勢を示したことや、米中通商交渉の進展期待から投資家のリスク回避姿勢が後退したことなどを背景に、下落（利回りは上昇）しました。しかし、1月から3月上旬にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大による実体経済への悪影響が懸念されたことなどを背景に、大幅に上昇（利回り低下）しました。その後期末にかけては、新型コロナウイルス対策のための財政支出拡大に伴う国債増発などへの懸念から一時的に下落（利回りは上昇）しましたが、FRBや欧州中央銀行（ECB）が緊急措置として国債購入の増額や流動性供給策を公表したことなどから上昇（利回りは低下）に転じました。期を通じてみれば、世界の国債市場は上昇（利回りは低下）しました。
- ・世界の株式市場は、期首から5月末までは、米トランプ大統領が対中関税の引き上げを発表し、中国も報復措置を打ち出すなど、米中通商問題の激化などが嫌気され、下落しました。6月から7月にかけては、FRBやECBの高官による緩和的な金融政策の発言が好感されたことなどから、上昇しました。8月は、米トランプ大統領による対中関税賦課の発表があり、米中貿易問題の激化への懸念などから下落しました。9月は、米中の閣僚級通商交渉再開が決定され、その進展に対する期待などから、上昇しました。その後、米中貿易交渉において部分合意がなされ、米国の対中追加関税引き上げが延期されたことや、英国の合意なきEU離脱に対する回避の期待が高まったことを背景に上昇しました。12月にかけては、米中が貿易協議について第一段階の合意に至るとの期待が高まったことや英総選挙において与党保守党が勝利したことなどを背景に上昇しました。1月後半には、中国において新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され、一時株価が軟調な局面もありましたが、2月前半に、中国国内における新型コロナウイルスの感染拡大ペースに鈍化の兆しがみられたことなどから株価は持ち直す展開となりました。2月後半から3月中旬にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大が世界各国に広がったことで世界経済への悪影響などが意識され、大幅に下落する展開となりました。その後期末にかけては、各国政府や中央銀行による景気下支え策への期待などから上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオ

以下の投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界各国の債券や株式等に投資しました。

投資先ファンド	組入比率		当期騰落率
	期首	期末	
ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ (適格機関投資家専用)	68.8%	70.3%	+4.9%
PGSFグローバル・ユーティリティーズ・ エグジティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド	29.8%	29.1%	-7.6%

・“PGSF”は「ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド」の略称です。以下同じ。騰落率は分配金を再投資したものとして計算しています。

投資先ファンドの組入状況

<ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ（適格機関投資家専用）>

世界主要国のソブリン債券を実質的な主要投資対象としてまいりました。投資にあたっては、発行体の信用格付を考慮したうえで、円インカム*が相対的に高いソブリン債券に着目し、投資を行ってまいりました。

*「円インカム」とは、円建てソブリン債券はその金利水準を指し、外貨建てソブリン債券は委託者が一定の条件で独自に算出した為替ヘッジに係るコストを控除した金利水準を指します。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替リスクの低減を図りました。

◇国別組入比率

国名	組入比率
ノルウェー	32.8%
スペイン	31.0%
シンガポール	30.5%

◇信用格付別組入比率

信用格付	組入比率
AAA格	63.2%
AA格	—
A格	31.0%
BBB格	—
BB格	—
B格	—
CCC格以下	—
無格付	—

・組入比率は当該投資先ファンドが組入れているマザーファンドにおける純資産総額に対する評価額の割合です。

<PGSF—グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド>

高配当利回りの世界の公益株を主要投資対象としてまいりました。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りました。

◇組入上位5カ国・地域

国名	組入比率
米国	65.0%
英国	6.7%
イタリア	6.5%
ドイツ	6.2%
カナダ	6.0%

◇組入上位5業種

業種名	組入比率
電力	55.0%
総合公益事業	31.9%
石油・ガス・消耗燃料	3.5%
水道	2.0%
陸運・鉄道	1.6%

(注) 組入比率は当該投資先ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄

銘柄名	国名	業種名	組入比率
センブラ・エナジー	米国	総合公益事業	4.8%
ネクステラ・エナジー	米国	電力	4.7%
ドミニオン・エナジー	米国	総合公益事業	4.4%
ファーストエナジー	米国	電力	4.4%
ナショナル・グリッド	英国	総合公益事業	4.3%
イタリア電力公社	イタリア	電力	4.3%
エクセロン	米国	電力	4.0%
イベルドローラ	スペイン	電力	3.9%
エンタジー	米国	電力	3.6%
アメリカン・エレクトリック・パワー	米国	電力	3.6%

・組入比率は当該投資先ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

分配金

当期の収益分配は、見送りとさせていただきます。

なお、留保益については、元本部分と同一の運用を行います。

◆分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり、税引前)

項目	第4期
	自 2019年5月16日 至 2020年5月15日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,367

- ・対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、当ファンドの収益率とは異なります。
- ・「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(1) 投資環境

世界の国債市場においては、米国では新型コロナウイルスの感染拡大による経済への影響が深刻化、失業率は急上昇し経済成長率も大幅な減速が見込まれます。これに対し財政政策とFRBによる事実上無制限の国債購入など対応策を積極化させており、景気動向と追加的な政策との綱引きとなる展開が続く見込みです。そのような中、米10年国債利回りは新型コロナウイルスの動向次第ながら、現状水準を中心に上下に変動する展開を想定しています。欧州ではユーロ圏内で相対的に経済規模が大きいイタリアやスペインなどで新型コロナウイルスの感染が深刻でした。都市封鎖は解除の方向ながら、経済への影響は当面続く見込みです。ECBの金融政策や各国の財政政策に景気下支えは期待されますが、ユーロ圏全体の財政政策の拡大には懸念点も見られます。このような環境の中、独10年国債利回りは新型コロナウイルスの動向次第ながら、現状水準から上下に大きく変動する展開を想定しています。

公益セクターの事業環境は、中長期的には世界的に電力などの需要拡大が予想されており、良好との見方には変わりありません。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による景気後退懸念を背景に今後も市場の値動きが大きくなることが想定されますが、市場の不透明感が高まるなかで株価が調整した場合には、中長期的な投資機会を提供するとみています。また、こうした環境下では、収益や配当の見通しがしっかりした公益銘柄への注目度が高まるとみられます。

(2) 投資方針

投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界各国の債券や株式等に投資します。当該投資信託は、外貨建資産について原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図るものとします。

お知らせ

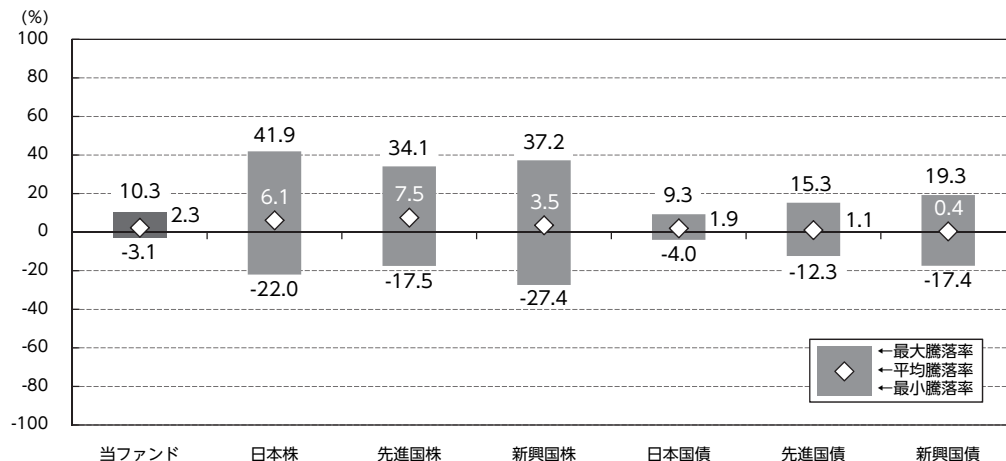
該当事項はありません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2016年5月13日（当初設定日）から無期限です。
運用方針	中長期的な信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。
主要投資対象	①ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ（適格機関投資家専用）受益証券 ②ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド・グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド受益証券
運用方法	①投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界各国の債券や株式等に投資します。 ②当該投資信託は、外貨建資産について原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減を図るものとします。
主な投資制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託の受益証券以外の有価証券への直接投資は行いません。 ③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(当ファンド：2017年5月末～2020年4月末、代表的な資産クラス：2015年5月末～2020年4月末)



○上記グラフは、対象期間中の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。対象期間が異なることにご留意ください。各資産クラスについては以下の指数に基づき計算しております。

○各資産クラスの指標

- 日本株 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
- 先進国株 MSCIコクサイ指数 (税引前配当込み、円換算)
- 新興国株 MSCIエマージング・マーケット指数 (税引前配当込み、円換算)
- 日本国債 NOMURA-BPI国債
- 先進国債 FTSE世界国債指数 (除く日本、円換算)
- 新興国債 JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円換算)

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジをしない投資を想定して、ドルベースの各指数を委託者が円換算しております。

- ・すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・騰落率は直近前月末から遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

(2020年5月15日現在)

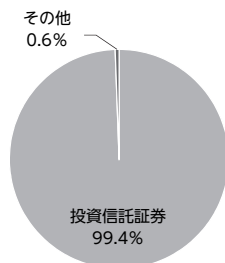
■組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

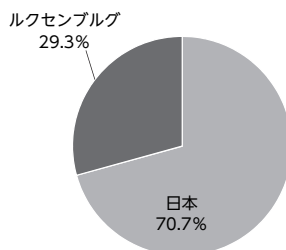
ファンド名	第4期末 2020年5月15日
ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ (適格機関投資家専用)	70.3%
PGSF-グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド	29.1%

・比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入ファンドの評価額の割合です。

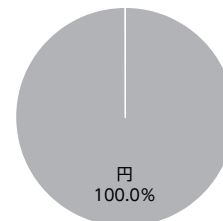
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



・資産別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分および通貨別配分の比率は当ファンドの組入投資信託証券の評価額合計に対する割合です。

純資産等

項目	第4期末 2020年5月15日
純資産総額	847,802,976円
受益権総口数	823,016,251口
1万口当たり基準価額	10,301円

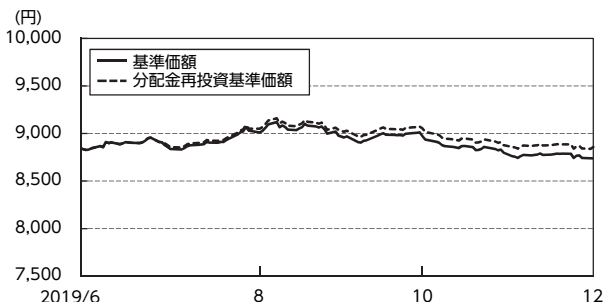
・当期中における追加設定元本額は299,321,571円、同解約元本額は638,507,627円です。

組入上位ファンドの概要

ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ（適格機関投資家専用）

（2019年12月10日現在）

■基準価額の推移



・分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

■1万口当たりの費用明細

（2019/6/11～2019/12/10）

項目	当期
(a) 信託報酬 (投資会社) (販売会社) (受託会社)	29円 (28) (0) (1)
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	1 (1) (0) (0)
合計	30

・上記項目の概要については2ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。
 ・当組入上位ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当組入上位ファンドに対応するものを含みます。
 ・円未満は四捨五入しています。

・基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は当組入上位ファンドの直近の作成期間のものです。

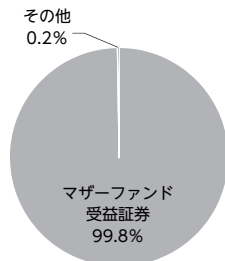
■組入ファンド

（組入銘柄数：1銘柄）

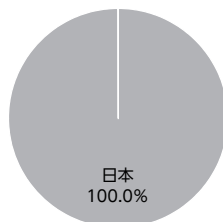
ファンド名	比率
ピクテ円インカム・セレクト・マザーファンド	99.8%

・比率は当組入上位ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

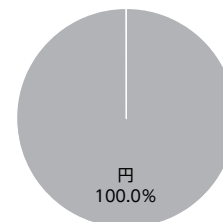
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



・比率は当組入上位ファンドの純資産総額に対する割合です。

(ピクテ円インカム・セレクト・マザーファンド)

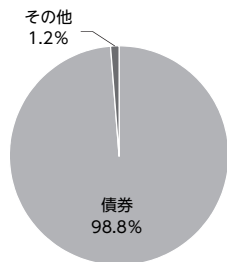
■組入上位10銘柄

(組入銘柄数：23銘柄)

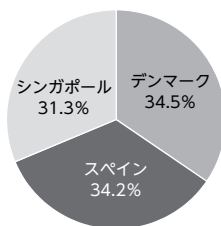
	銘柄	比率
1	4.5% DENMARK GOVT	12.9%
2	0.5% DENMARK GOVT	8.6%
3	3% SINGAPORE GOVT	7.0%
4	1.75% SINGAPORE GOVT	6.6%
5	2.625% SINGAPORE GOVT	5.7%
6	6% SPANISH GOVT	5.3%
7	5.9% SPANISH GOVT	5.3%
8	5.15% SPANISH GOVT	4.6%
9	4.85% SPANISH GOVT	4.2%
10	3% DENMARK GOVT	4.0%

- ・比率は当マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。
- ・全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

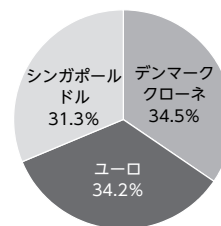
■資産別配分



■国別配分



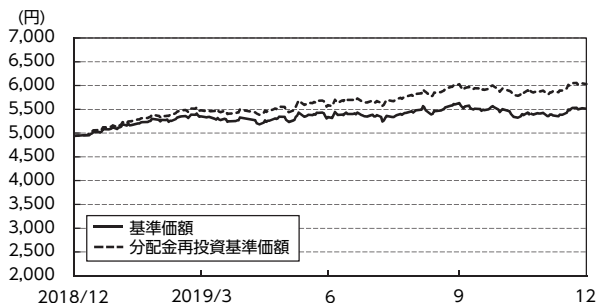
■通貨別配分



- ・資産別配分の比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合、国別配分および通貨別配分の比率は当マザーファンドの組入有価証券の評価額合計に対する割合です。

(2019年12月31日現在)

■基準価額の推移



■組入上位10銘柄

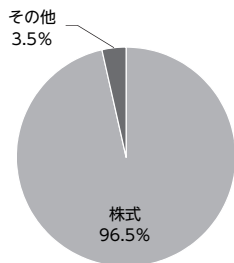
(組入銘柄数：59銘柄)

	銘柄	比率
1	NEXTERA ENERGY	4.6%
2	NATIONAL GRID	4.3%
3	SEMPRA ENERGY	3.9%
4	AMERICAN ELECTRIC POWER	3.8%
5	XCEL ENERGY	3.6%
6	ENEL	3.6%
7	DOMINION ENERGY	3.6%
8	ENTERGY	3.5%
9	EXELON	3.3%
10	R.W.E.	3.2%

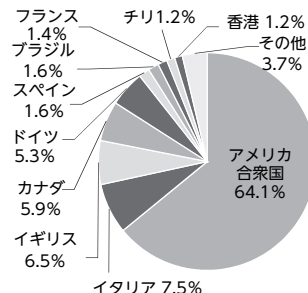
- ・基準価額の推移は当組入ファンドの直近の計算期間のものであります。
- ・分配金再投資基準価額は、分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

- ・比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

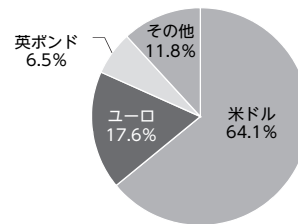
■資産別配分



■国・地域別配分



■通貨別配分



- ・資産別配分の比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合、国・地域別配分の比率は当組入ファンドの組入有価証券の評価額合計に対する割合です。

■1万口当たりの費用明細

当該情報につきましては開示されていないため、記載することができません。なお、損益計算書については運用報告書（全体版）に記載されています。

指数に関して

○「代表的な資産クラスと騰落率の比較」に用いた指数について

■東証株価指数（TOPIX）（配当込み）：

東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象とし、浮動株ベースの時価総額加重型で算出された指数で、同指数に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所（以下「東証」といいます。）に帰属します。東証は、同指数の指数値およびそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東証は同指数の算出もしくは公表方法の変更、同指数の算出もしくは公表の停止または同指数の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■MSCIコクサイ指数（税引前配当込み）：

MSCIコクサイ指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■MSCIエマージング・マーケット指数（税引前配当込み）：

MSCIエマージング・マーケット指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■NOMURA－BPI国債：

NOMURA－BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また同社は同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、当ファンドの運用成果に関して一切責任を負いません。

■FTSE世界国債指数（除く日本）：

FTSE世界国債指数（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券指数です。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■JPモルガンGBI－EMグローバル・ディバーシファイド：

JPモルガンGBI－EMグローバル・ディバーシファイドは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的な指数です。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。